

問題・解答
用紙番号

40

の解答用紙に解答しなさい。

世 界 史

〈受験学部・学科〉

3 科目型 受験者

法学部，国際学部，経済学部，経営学部，現代社会学部，
農学部【文系科目型】（食農ビジネス学科）

問題は100点満点で作成しています。

I 次の文章を読み，あとの設問に答えよ。（40点）

第二次世界大戦終結後，中国国民党と中国共産党の対立は深まり，内戦が始まった。それに敗れた国民党は1949年12月，政府を台北に移して中華民国を存続させ，国際連合における安全保障理事会常任理事国としての立場を1971年まで維持した。勝利した共産党は国民党と距離をとる諸党派を取り込み，1949年9月に人民政治協商会議を開き，10月には毛沢東を主席，周恩来を首相とする中華人民共和国が建国された。

中華人民共和国は，1950年にソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連）と中ソ友好同盟相互援助条約を締結し，社会主義圏に属する姿勢を明らかにした。さらに同年に勃発した (1) では，北朝鮮側を支持して義勇軍を派遣した。中国はソ連の支援のもと，社会主義化をすすめ，1953年からの第1次五カ年計画では工業化と農業の集団化をおしすすめた。その一方で，周恩来は1954年にインドの (2) 首相と会談して平和五原則を発表した。翌年には，インドネシアの (3) でアジア＝アフリカ会議が開催され，29カ国が参加した。

1958年，毛沢東は急激な社会主義建設をめざす (4) 政策を指示し，農村での人民公社設立をすすめた。しかし，経済は壊滅的な打撃をうけ，自然災害もかさなって膨大な餓死者を出した。かわって (5) が国家主席となったが，毛沢東は復権をねらい，1966年，軍の指導者の林彪などとともにプロレタリア文化大革命を開始した。全国で紅衛兵が組織され， (5) や鄧小平らは「資本主義の道を歩む実権派」として批判され，追放された。

一方，対外的には1959年にチベットでおきた大規模な蜂起を中国軍が鎮圧して，中印関係が

悪化していた。これにさきだつ^(g) 1956年のソ連共産党第20回大会におけるスターリン批判ののち、社会主義のありかたをめぐる論争から中ソ関係も悪化し、1969年には国境での軍事衝突にいたった。中ソ対立の激化は、中国の対米接近をうながし、1972年にはアメリカ合衆国の (6) 大統領が訪中して、米中和解が実現した。

1976年、周恩来と毛沢東があいついで死去すると、文化大革命推進派の江青ら「 (7) 」が逮捕されて文化大革命が終結した。毛沢東の後継者となった華国鋒は、かつて周恩来がとなえた農業・工業・国防・科学技術の「 (8) 」を再提起し、ついで実権をにぎった鄧小平は 改革・開放政策を実施した。
(h)

問 1. 空欄 (1) ～ (8) にもっとも適切な語を記入せよ。

問 2. 下線部(a)～(h)について、以下の問いに答えよ。

(a) 中国国民党に関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ㊦ 初の総統直接選挙で李登輝が当選した。
- ㊧ 蒋介石が率いる国民革命軍が、北伐をすすめた。
- ㊨ 孫文はソ連の援助を受け入れて、この党を改組した。
- ㊩ コミンテルンの指導のもと、陳独秀らによって結成された。

(b) このときの安全保障理事会常任理事国に含まれない国を一つ選べ。

- ㊦ イギリス ㊧ イタリア ㊨ ソ連 ㊩ フランス

(c) この会議が開かれた都市はどこか。地図中の記号㉖～㉙から正しいものを一つ選べ。



(d) 社会主義圏の国に関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ㉖ ドイツ民主共和国（東ドイツ）は、東西ベルリンの境界に壁を築いた。
- ㉗ チェコスロヴァキアでは、「プラハの春」と呼ばれた民主化を求める市民運動がおこった。
- ㉘ キューバでは、カストロがキューバ革命を指導し、社会主義宣言を発表した。
- ㉙ ハンガリーでは、ソ連軍の介入により、改革をすすめようとしたゴムウカ（ゴムルカ）が失脚した。

(e) 平和五原則に含まれないものを一つ選べ。

- ㉖ 内政不干涉 ㉗ 平和共存 ㉘ 門戸開放 ㉙ 領土保全と主権の尊重

(f) 17世紀にチベットにたてられた建造物は何か。正しいものを一つ選べ。

㊦ アンコール=ワット

㊩ 紫禁城

㊧ タージ=マハル

㊥ ポタラ宮殿

(g) このときスターリン批判をおこなった第一書記は誰か。正しいものを一つ選べ。

㊦ ゴルバチョフ

㊩ フルシチョフ

㊧ ブレジネフ

㊥ レーニン

(h) 改革・開放政策に含まれないものを一つ選べ。

㊦ 外国資本・技術の導入

㊩ 人民公社の解体

㊧ 土地改革の実施

㊥ 生産請負制の導入

Ⅱ 次の文章を読み、あとの設問に答えよ。(30点)

紀元前58年から前51年にかけて (1) の率いるローマ軍がガリア遠征をおこない、その遠征は大ブリテン島にまでおよんだ。(1) はその記録として『ガリア戦記』を著し、これは当時の大ブリテン島を知るための貴重な史料となっている。ケルト人の住む大ブリテン島ではローマ人による支配が始まったが、その支配は大ブリテン島の全域にはおよばず、^(a)五賢帝時代にローマ支配の北限に長城(壁)が築かれ、そこがおおよそイングランドと (2) の境となった。ゲルマン人の大移動が始まると、アングロ=サクソン人が大ブリテン島にわたり、9世紀までのあいだにアングロ=サクソン七王国をたてた。その後、ノルマン人も大ブリテン島に侵入した。1066年にはノルマンディー公が王位を主張して攻め込み、(3) として即位し、ノルマン朝のイングランド王国が始まった。

プランタジネット朝になると、イングランド王は、^(b)フランス王国内にも多くの所領を有していたが、(4) の治世にその大半を失った。また、重税に対する貴族たちの反抗に直面し、1215年に (4) は大憲章(マグナ=カルタ)を認めた。15世紀後半に、王位継承をめぐるヨーク家とランカスター家による (5) 戦争が勃発した。最終的に、ランカスター派のヘンリ7世がテューダー朝を開いた。しかし、エリザベス1世が死去すると、ステュアート家の (2) 王が、1603年にイングランド王 (6) として即位した。

その後、2つの^(c)革命がおき、まずイギリス革命(ピューリタン革命)により、国王は処刑され、クロムウェルが共和政をうちたてた。クロムウェルは1651年に航海法を制定し、中継貿易で繁栄していた^(d)オランダに打撃を与えた。クロムウェルの死後、王政が復活するも、親カトリック的な政策をとる国王と議会が対立し、名誉革命がおきた。1688年にはオランダ総督がイングランドにまねかれ、翌年、オランダ総督は (7) として、妻メアリとともに王位についた。そのあとを継いだメアリの妹 (8) の治世に、イングランドと (2) は合同して大ブリテン王国となった。(8) の死後、ドイツのハノーヴァー選帝侯が国王にむかえられ、(9) として即位し、ハノーヴァー朝が始まった。この王朝は、^(e)第一次世界大戦中に現在のイギリスの王朝名であるウィンザー朝に改称した。(9) はドイツに滞在することが多く、英語も堪能ではなく、議会にあまり出席しなかった。そのため、1721年にホイッグ党の (10) が首相となり、その後、内閣は国王ではなく議会に対して責任を負う責任内閣制が形成された。

問1. 空欄 (1) ～ (10) にもっとも適切な語を記入せよ。

問2. 下線部(a)～(e)について、以下の問いに答えよ。

(a) 五賢帝に含まれないのは誰か。一つ選べ。

- ア トラヤヌス
イ ハドリアヌス
ウ オクタウィアヌス
エ マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス

(b) フランス王国に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ア ルイ9世はルブルックを使節としてモンゴル高原におくった。
 イ アンリ4世はナントの王令(勅令)を発して、カトリックを禁止した。
 ウ ルイ13世はマリア=テレジアと同盟を結んだ。
 エ ルイ16世はテルミドール9日のクーデタで失脚した。

(c) ヨーロッパでおきた革命に関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ア 国王が三部会の開催を拒否したために、フランス革命が勃発した。
 イ 1848年にウィーンでおきた三月革命で、メッテルニヒは失脚した。
 ウ 第一次世界大戦中のドイツ革命で、ドイツ皇帝は亡命した。
 エ 第1次ロシア革命をうけ、皇帝ニコライ2世は十月宣言(勅令)を発した。

(d) オランダ（ネーデルラント連邦共和国）に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ⑦ コンスタンツ公会議の結果、フスが火刑に処された。
- ⑧ イスラーム勢力に対して国土回復運動（レコンキスタ）をおこなった。
- ⑨ ルイ14世によって侵略戦争をおこされた。
- ⑩ 王国として復活すると、ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世が王位についた。

(e) 第一次世界大戦に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ⑦ ドイツは中立国スペインに侵攻した。
- ⑧ フランス南部にヴィシー政府がおかれた。
- ⑨ タンネンベルクの戦いでドイツがロシア軍を破った。
- ⑩ 連合国はオーストリアとセーヴル条約を結んだ。

(11) 大量生産を可能にする技術革新は、18世紀にイギリスの綿工業の分野から始まった。飛び杼^ひの発明によって、綿織物の生産量が急速に増加し、さらに多軸紡績機やミュール紡績機などの発明により、良質の綿糸の大量生産が可能になった。その後、クロンプトンが力織機を発明し、綿布の生産が飛躍的に増大した。

- ① ハーグリーヴズ ㊦ コッホ
② カートライト ㊧ アークライト

(12) 産業革命によって原料や製品の大量輸送が必要となった。1769年にワットによって蒸気機関が改良され、紡績機や力織機などの動力として活用された。この技術をもとに1825年にフルトンが蒸気機関車を実用化し、それ以後、公共の陸上輸送機関として鉄道が普及した。

- ① スティーヴンソン ㊦ オーウェン
② パストゥール ㊧ ニューコメン

(13) 18世紀後半のイギリスでは、茶の需要の増大にともなって中国茶の輸入が急増し、輸入超過の結果、大量の銀が中国に流出していた。これを打開するためにイギリスは、19世紀初めから中国茶をイギリスに、イギリスの綿製品をインドに、インド産のゴムを中国に運ぶ三角貿易を始めた。

- ① 金 ㊦ 陶磁器 ③ アヘン ㊧ コーヒー

(14) 19世紀から20世紀初頭の欧米では、科学技術の著しい進歩がみられた。ドイツではディーゼルがディーゼル機関を、ベルがガソリンエンジンをそれぞれ発明した。アメリカ合衆国ではフォードが自動車の大量生産に成功し、ライト兄弟は飛行機を発明した。

- ① エディソン ㊦ ダイムラー
② モーリス（モース） ㊧ メンデル

(15) ロシアでは、19世紀半ばに西部で金・銀の採掘が始まり、ついで牧畜業や小麦生産が発達し、牛肉や食料が東部の市場へ供給された。1869年には最初の大横断鉄道が完成し、国内市場は緊密なネットワークで結ばれた。これにより1890年代にはフロンティアが消滅した。

- ① アメリカ合衆国 ㊦ インド
② フランス ㊧ ドイツ